

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和3年2月10日（水） 11:00

子ども図書館 大研修室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

議案第39号「令和3年2月北九州市議会定例会への提出議案等について」

(総務課長)

(2) 協議

協議①「北九州市における後期中等教育機関の今後の対応について」

(指導企画課長)

(3) その他報告

その他報告①「小倉北特別支援学校等整備事業に係る『公共事業評価に関する検討会議及び市民意見』を踏まえた市の対応方針について」

(特別支援教育企画担当課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- | | | | |
|---|-------|---|--|
| 1 | 開催年月日 | 令和3年2月10日（水） | |
| 2 | 開催時間 | 11:00～12:00 | |
| 3 | 開催場所 | 子ども図書館 大研修室 | |
| 4 | 出席者 | （教育長）田島 裕美
（教育委員）シャルマ 直美 平野 氏貞 大坪 靖直
津田 恵次郎 竹本 真実 | |
| 5 | 事務局職員 | 教育次長
総務部長
教職員部長
学校支援部長
指導部長
学力・体力向上推進室長
総務課長
企画調整課長
特別支援教育企画担当課長
教職員課長
特別支援学校担当課長
教職員給与課長
教育センター所長
学事課長
学校保健課長
施設課長
指導企画課長
指導第一課長
次世代教育担当課長
教育振興担当課長
指導第二課長
教育相談・連携担当課長
特別支援教育課長
特別支援教育相談センター所長
学力・体力向上推進室次長
中央図書館庶務課長
中央図書館奉仕課長
子ども図書館長 | 太田 清治
松成 幹夫
福嶋 一也
柏井 宏之
古小路 忠生
金子 二康
田中 真徳
正平 徹二
緒方 直彦
宮基 章弘
吉本 一也
田中 満英
上田 あけみ
仲道 裕一
角野 純二
太田 敦
根橋 広樹
澤村 宏志
高橋 秀明
竹永 政則
中溝 直樹
川上 伸一
小西 友康
森永 勇芽
藤井 創一
山口 奈穂子
福田 淳司
河村 信孝 |
| 6 | 書記 | 総務課庶務係長
総 務 課 | 増田 真二
事柴 佑斗 |
| 7 | 会議の次第 | 別紙のとおり | |

教育委員会(定例会)会議録（令和3年2月10日）

1 開 会

11:00 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、シャルマ委員と竹本委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

- ・議案第39号「令和3年2月北九州市議会定例会への提出議案等について」
- ・協議①「北九州市における後期中等教育機関の今後の対応について」
- ・その他報告①「小倉北特別支援学校等整備事業に係る『公共事業評価に関する検討会議及び市民意見』を踏まえた市の対応方針について」

3 案 件

(1) 非公開案件

議案第39号「令和3年2月北九州市議会定例会への提出議案等について」

本議案の提案理由を総務課長が説明。

[提案理由要旨]

令和3年2月北九州市議会定例会へ提出する議案等について、提案するもの。

原 案 可 決

協議①「北九州市における後期中等教育機関の今後の対応について」

本議案の提案理由を指導企画課長が説明。

[提案理由要旨]

戸畑高等専修学校及び北九州市立高等学校について、検討会議での内容を踏まえた、今後の対応について協議するもの。

協 議 終 了

その他報告①「小倉北特別支援学校等整備事業に係る『公共事業評価に関する検討会議及び市民意見』を踏まえた市の対応方針について」

特別支援教育企画担当課長が報告。

[報告要旨]以下の項目について報告。

小倉北特別支援学校等の整備事業について、今後の対応方針を公表するため、報告を行うもの。

竹本委員／有識者による検討会議なども重ねて十分審議されており、市民や実際に通う家庭の方の意見も反映されていると感じている。そういった、希望や意見を大切にしているということが、とてもよく伝わった。

実際に通われている子どもの保護者の知り合いの方がいらっしゃったので、いろいろ話を聞いた。その方は「これそのものにはとても好意的に感じているが、やはり特別な支援を必要とする子どもというの一人ひとり、苦手とする分野が違うので、単純に新しい環境や場所を変えるだけでは不十分である。職員の方や細かい1つ1つのルーティンなどが変わるだけでも、子どもたちにとっては、負担が大きい」とおっしゃっていた。

そのため、一人ひとり、どの子どもも安心して学校に通えるような、そういった充実したサポートというのを学校の先生方で、共通認識を持って取り組んでいただいていると思う。ぜひ、地域や保護者に分かりやすく説明いただきたい。「こういうところにポイントを絞って力を入れていきますよ」というようなお知らせを積極的に行っていただきたい。

また、以前、中央高等学園を視察して、地域の方々との活動や交流がとても充実している印象を強く受けた。ぜひ、移転後も地域に根ざした学校づくりをしていただきたい。やはり、この特別支援学校に限らず、子どもの成長を地域全体、社会全体で支えるような、そういった土壌づくりにも併せて力を入れて進めていただきたい。

シャルマ委員／3ページの別紙1「事業の必要性」に、「中央高等学園の作業内容がなかなか就職に直結しないなど、現行の作業学習や企業のニーズに対応しきれていないという状況にある」と記載があるが、やはり世の中が変わっていくと、求められる能力や作業内容なども変わっていくと思う。

特別支援学校で行っている農業が、実際の農業関連の職業への就職に繋がらないにしても、農業という体を使った作業が、将来的に仕事につながることもあると思う。多くの予算をかけて作業室を整えても、それがのちの将来につながらない、ということにならないようにしていただきたい。

特に職業、一般就労を目指している児童生徒たちは、学校外の企業の協力や事業所の協力を得て、できるだけ学校の外で、実際いろいろな作業を体験できるほうがよいのではないかなと思う。

予算総事業費も多く使われる事業であるため、市民の関心も高いと思う。内容についてはしっかりと検討していただきたい。

津田委員／5ページの別紙2「事業目標の設定」について、伺う。

検討会議で様々なことが検討されたと思うが、資料には市の対応の方針として、目標を「作業学習の種類を増加とする」とされている。

しかし、この「作業学習の種類を増加とする」ことが、どうしても漠然としているように感じる。「こういう目標を設定することによって具体的に期待されること」というのがもし説明できるのであれば、説明いただきたい。

また、この目標を設定するにあたって、現状として把握できている課題などがあれば、教えていただきたい。

特別支援教育課長／具体例を1つお示ししたい。

例えば昨今、コロナ禍の影響によって、非常に物流の動きが速くなってきている。

そういった状況を踏まえ、例えば、東京都の特別支援学校では、運輸・物流に関する作業学習が行われている。

このように、企業側の雇用ニーズに応じて、作業学習を変えていき、雇用機会の拡大を図っていくことを考えているところである。

特別支援教育企画担当課長／作業学習の種類が増加というところについては、令和元年度で13種であるものを、令和7年度には15種と2種追加する予定だが、作業学習の内容そのものについても、見直しを図っていきたいと考えている。

また、「課題は何か」という点については、今回の公共事業評価においては、「ハード面の整備で現在の作業学習をより充実させることが、就労率に結び付くのか」という課題がある。

この課題については、すぐに結果が出ることが難しい部分はあるとしつつも、長期的なスパンで見ると、一般就労のできる子どもたちを増やすことにつながっていくと考えている。そのための施設整備を行っていきたい。

報 告 終 了

4 閉 会

12:00 田島教育長が閉会を宣言